



インクルーシブ教育とは

障がいの有無に関わらず、誰もができるだけ同じ場所で学ぶことを目指す教育の仕組みです。共生社会の実現に向けて、その環境整備を進めるとともに、特別支援教育の充実も図ります。

■通級学級における困り感（※１）のある児童生徒の対応

学校には軽度発達障がいのある児童生徒を含め、特別支援学級に在籍せず、通常学級に在籍する困り感を抱えている児童生徒がいます。そういった児童生徒一人一人の状況に応じた教育を受けさせたいというニーズの高まりから「通級による指導」を受ける児童生徒数は全国的に年々増加し、本町も同様の傾向にあります。

■多様な学びの場の提供について

現在は「通常学級」と「特別支援学級」だけでなく多様な学びの場として、通常の学級に在籍しながら、児童生徒の状況に合わせて、一部の時間（※２）に特別な場で、自立に向けた教育を受けることができる「通級による指導（通級指導教室）」が平成５年度に制度化されました。

※１ 「困り感」とは

本人が意図しなくても、生活面や学習面で支障をきたす状況のことです。児童生徒によってさまざまです。

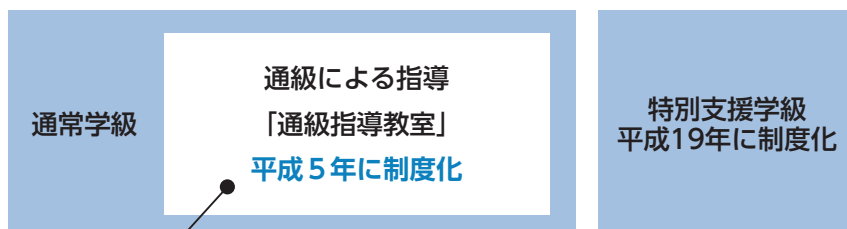
- 例）□ 注意欠如多動症（ADHD）傾向の子どもは、本人は頑張りたいと思っても、授業中に気が散ってしまったり、じっとしていられないことがあります。
- 自閉スペクトラム症傾向の子どもは、相手の気持ちを察することが苦手であることが多いため、本人に悪気はなくても友達とトラブルになってしまうことがあります。

※２ 週８時間以内で、担当教員が、通常学級の中で支援や個別支援を行うことができます。

●平成５年以前の教育体制



●現在の教育体制



通級指導を受ける児童生徒

基本は通常学級での指導＋（プラス） 個に応じた指導

「通級による指導（通級指導教室）」は基本的に、言語障がい、自閉症、情緒障がい、弱視、難聴、限局性学習症（LD）、注意欠如多動症（ADHD）を対象としています。

■本町の「通級指導教室」現状と今後について

通級による指導を担当する教員は、北海道教育委員会からの加配教員（学級に応じた定数教員のほか、必要に応じて配置される教員）となり、通級指導を受ける児童生徒が一定数必要となります。

現在、「通級指導教室」を開設しているのは、別海中央小学校と、野付小学校・上西春別小学校・上西春別中学校・中春別小学校・中春別中学校・西春別小学校（２名の教員を巡回指導する形）です。

今後、その他の学校についても「通級指導教室」の設置に向けて、引き続き調査と検討を行っていきます。不明な点などございましたら、右記担当へお問い合わせください。

■北海道立特別支援教育センターの各種相談について

北海道立特別支援教育センターでは、電話やＥメールによる教育相談のほか、来所相談、パソコンやタブレット端末などを使った遠隔相談（来所相談や巡回相談を実施した方）などを実施しており、より専門的な相談を受けることができます。詳しくは、左記の同センターホームページへお問い合わせください。

令和７年度「別海町ビブリオバトル」チャンプ本決定！

■小学生の部 野付小学校 『かあちゃん取扱説明書』

発表者：山本^{やまもと} 晃瑛さん（６年）／東狐^{とうこ} あんさん（６年）／中島^{なかじま} 楓さん（６年）^{かえで}

■中学生の部 上春別中学校 『「この差」ってなんだ？』

発表者：岸本^{きしもと} 諭良さん（２年）／土屋^{つちや} 樟真さん（２年）／中野目^{なかのめ} 紗知さん（２年）^{さち}

本年度で第７回となる「別海町ビブリオバトル」を７月２８日、生涯学習センターみなくで開催しました。町内全小・中学校から計４０名が代表として参加し、それぞれがおすすめする本を５分間の中で魅力的に紹介しました。



発表後、参加児童生徒により「１番読みたいと思った本」の投票を行い、小学生の部は野付小学校の推薦による『かあちゃん取扱説明書』、中学生の部は上春別中学校の推薦による『「この差」ってなんだ？』が、本年度のチャンプ本に選ばれました。